ロイヤル・アグリカルチュラル・ウインター・フェア
第45回組合員海外酪農視察研修

第45回目となる海外酪農視察研修が2016年11月7日から13日の7日間の日程で開催されました。この研修はデーリィマン社との共催で行われ、カナダのトロント州で開催されたロイヤル・アグリカルチュラル・ウインター・フェアやオンタリオ州とケベック州郊外にある牧場を視察しました。

■ 11月7日 ■

今年度の酪農視察旅行は、参加人数道内11名・道外5名添乗員を含む総勢17名の視察団でした。

私を含めて11名の道内参加者は、新千歳空港に午後1時に集合しました。デーリィマン社の荒川部長及び当組合の藤澤参事より激励の挨拶をいただいた後、当組合の中田和孝理事を団長に羽田空港へと向かいました。羽田空港で本州からの参加者5名と合流し、一行はトロント空港へ向けて出発。13時間のフライトの後、トロント空港に16時過ぎに無事到着しました。入国審査を済ませて本視察旅行の通訳のテリー鈴木氏と合流し、20時50分発のケベック行の乗継便を待つ間に夕食を済ませ、ケベック空港から市街地にあるホテルまではバスで移動し、23時過ぎにホテルへ到着しました。

■ 11月8日 ■

この日の行程は、午後からケベック郊外の2軒の牧場視察で、天候は晴れており暖かく絶好の牧場視察日和でした。ケベック旧市街をバスで散策。ケベック旧市街の歴史地区は、世界遺産に登録されており、城壁に囲まれた北米唯一の城塞都市として知られています。フランスの支配下にあった当時の建築や面影が多数残されており、情緒にあふれた街並みでした。

写真上-左　ケベック旧市街にあるサミュエル・ド・シャンプラン(17世紀フランスの地理学者・探検家・地図製作者。フランス王の意向に従い、ケベック植民地の基礎を築く)の銅像
写真上-中　ロワータウンからみるケベック旧市街。左上の建物は、フェアモン・シャトーフロントナックという一流ホテル
写真上-右　ケベック旧市街の丘から見下ろすセントローレンス川

今日の視察の目的である牧場へと向かいました。1軒目は、ペティトクレルクファーム(Ferme Petitclerc)です。ここでは、牧場主のレジェン氏に案内してもらいました。この牧場は1950年に彼の父親が創業し、1987年に繁殖成績が優秀な牛群に贈られるマスターブリーダーの称号を獲得している。総飼養頭数300頭のうち、100頭が搾乳牛です。労働力は5人(家族4人、従業員1人)で、繁忙期にはヘルパーを雇っている。牛群の305日成績は、乳量が11,000kg、乳脂肪率が4.4%、乳蛋白率が3.3%。体型を重視しており、25%がヤング、75%が検定済みのサイアーを供用している。90%

以上が自家繁殖で、５％が購入によるものである。ETは１年で30頭ほど行う。この地域は寒暖差が激しく、冬に-30℃まで冷え込むことがあるが、その時期でも牛舎内は+４℃前後に保たれている。乾乳を除いて、夏季でも外に出すことはない。現在の供用種雄牛は、ドアマン、デンプシー、ソロモンを授精しており、ヤングサイアーはソロモンの息子を多く使っているとのことでした。

牧場入口で集合写真を撮影

一番手前の牛はEX-91

Petitclerc Goldwyn Anouk　VG-89

Massico Windbrook Charly　EX-93

１軒目の牧場からバスで１分の位置に２軒目の視察先であるジェイコブスファーム（Ferme Jacobs INC）があります。案内は、牧場主の息子のヤンさんが身取りコーン収穫の真っ最中でしたが対応していただいた。

1965年に祖父母が牧場を創業。現在の総飼養頭数は600頭であり、うち180頭が搾乳牛。１年で約300頭が分娩し、305日成績は乳量が11,500kg、乳脂肪率が4.3%、乳蛋白率が3.4%。現在の労働力は７人(家族５人と従業員２人)。カスタムワーカーは雇わない。削蹄は年３～４回行う。体型を重視してサイアーを選んでおり、100%近くヤングサイアーを利用しているがショウカウにはほぼデンプシーを交配している。

今年のローヤルには13頭の経産牛と８頭の未経産牛の合計21頭を連れて行っており、シンジケートの牛を含めると更に頭数が増えるとのことでした。

Jacobs Atwood Vedette　EX-95
Jacobs Goldwin Britany　EX-96

この日２カ所の牧場視察をして、ショウカウと搾り牛のボディコンディションに圧倒的に違いがあることを感じました。ショウカウは、痩せすぎではないかというくらい肋が浮き出ている状態で管理されており、牛舎に入ってすぐにこの牛はショウ

に使っている牛達なんだなと分かりました。

■ 11月９日 ■

この日は、牧場視察３カ所目となるサミットホルム牧場（Summitholm Holstein）とナイアガラ・フォールズへ向かうため、ケベック空港から飛行機に乗りオンタリオ州のトロント空港に到着後、サミットホルム牧場へと移動しました。

サミットホルム牧場は、1947年に現牧場主の祖父がチェコからこの地に渡り入植。430頭の搾乳を５人（内２人は雇用）で行い、牛群の305日間成績は13,800kg、乳脂肪率が4.1%、乳蛋白率が3.2%。とにかくミルクをたくさん出す牛が好きだと話すロウイズ氏ですが、授精は85%がヤングブル、15%がLPIトップブルを供用しているとのことでした。

牛舎のフロアは、中央へ向かって１%の勾配がついている

７番を刈り終えたルーサン畑

牛舎のフロアは、中央に向かって１%の勾配がついて尿が中央に流れていくという構造になっていて、足に負担がかからないか気になる所でしたが、ベッドが砂のため飛節が腫れている牛が非常に少なく、また乾いていました。

ベッドに使われている砂は週１回入れ替えられ、その入れ替えに際して70トンの砂が使われており、価格は１トン当たり12カナダドルで購入しているとのことでした。

12頭ダブルのパーラー

巨大なバンカーサイロ

牧場視察を終えて、次は世界３大瀑布のひとつナイアガラの滝へバスで移動しました。ナイアガラ・フォールズでは、自由時間として各自自由に滝を観覧しました。

■ 11月10日 ■

いよいよ研修のメインイベントであるローヤルウインターフェアを視察するため、午前８時過ぎに会場に向けてシャトルバスで移動しようとしましたが、バスが満席のため５名がタクシーで移動となりました。到着時の会場はまだ閑散としていたものの、10時を過ぎると多くの人が来場し賑わいをみせていました。

この日は終日自由行動であり、多くの参加者は会場のリングオブエクセレンスにてR&Wホルスタインショウおよびブラック&Wホルスタインショウ１部と２部を観戦しました。リングオブエクセレンスは、展示および飲食ブースと隣接しており、一般来場者も自由に入場可能なエリアです。私は、頼まれた買い物とショーを見たい気持ちが中々噛み合わず、審査会場とブースを行ったり来たりして大変疲れました。R&Wのグランドチャンピオンは、Meadow Green Absolute Fannyが獲得しました。

審査終了後のリングオブエクセレンスでは、午後５時30分よりオークションが開催されました。セリ人のリズムのあるやりとりは絶妙で、会場は超満員の盛り上がり、最高落札価格は、Bryhill Jedi Nickoleaで、152,000カナダドルでした。

R&Wのグランドチャンピオン：Meadow Green Absolute Fanny

■ 11月11日 ■

ローヤルウインターフェア視察の２日目。前日馬術競技が行われていたリコーコロシアム（普段は、アイスホッケーの試合が行われる会場）に会場を移し、ブラック&Wホルスタインショウの３部から審査が行われました。

この日、私は一人で会場入りし良い席をキープしようと意気込んで出発しましたが、別のツアーで参加していた知り合いが席を取っていてくれたので有り難く座らせていただきました。（この場を借りてお礼申し上げます）

未経産は、似たような牛達が並び面白味に欠けるというのが正直な感想でしたが、２才Jr.のTrefle Chassep Doormanがリングに登場した際には目を奪われました。

Trefle Chassep Doorman

グランドチャンピオン： Jacobs Gold Liann

グランドチャンピオンには、今回の視察先であるジェイコブスファームから出品された３才Jr.クラスのJacobs Gold Liannが輝きました。

プレミアムエキジビターには、ミルクソースLLCが選出され、中田理事と私がプレゼンターとして北海道ホルスタイン協会長賞の盾を贈呈しました。（中田理事の計らいにより私が中央の方で写ることができました。プレゼンの写真はＳＴジャパン㈱の荒木氏に撮影していただきました。）

視察研修のカナダ最後の夜は、ホテルから徒歩５分ほどの距離にあるステーキハウスで夕食を堪能しました。この日のショウや昨今の日本の酪農情勢を話題に、最後まで話が尽きないディナーでした。

■ 11月12日 ■

この日は出発まで少し時間に余裕があったことから、希望者数名でホテルから徒歩10数分の距離にあるセント・ローレンス・マーケットに向かい、お土産を調達しました。

ホテル出発時に映画の撮影のためバスがホテル前に止まれず、少し歩きバスに乗り込みトロント空港へと移動し羽田空港へ向けて出発、定刻より遅れて羽田空港に到着したため、乗り継ぎ便へと各自手続きが必要な事からバタバタとした中で、本州からの参加者と別れました。その後、道内からの参加者は新千歳空港行きのフライトに乗継し、午後９時半に到着して本旅の全行程が無事終了しました。

参加者は16名と少なかったものの、幅広い年齢層の構成となり、若者は酪農やショーの見方を教えてもらうなど、１週間を通して終始和やかな雰囲気の視察旅行でした。また、ケベックの視察先の２軒が牧場牛群で１位２位を獲得した事も喜ばしい出来事でした。

今回のツアーに参加していただいた皆様並びに、現地カナダでお会いした日本の皆様に、私の相手をしていただきました事をこの場を借りてお礼申し上げます。

（経済部市場流通課技師 若林）

プレミアムエキジビター ミルクソース LLC